
ご挨拶

第49回胃病態機能研究会
当番会長 三輪 洋人
兵庫医科大学内科学消化管科
主任教授



2017年2月18日（土）、19日（日）の2日間にわたり名古屋国際会議場において第49回胃病態機能研究会が開催されますが、私はこの度、当番会長を仰せつかりました。この伝統ある会を主宰させていただくことは大変名誉あることで光栄に存じております。

最近の医学の進歩の早さには驚くべきものがあります。さまざまな疾患で次々と新たな病因や病態が解明され、それをもとに新規の治療法が開発されています。消化管疾患、とくに胃疾患の分野も例外ではありません。この分野での最大の出来事はヘリコバクター・ピロリの発見とその病的意義の解明ではないかと思われます。2005年にこの細菌の発見でオーストラリアのウォーレンとマーシャルがノーベル賞を受賞しましたが、この発見は胃疾患の病態解明に大きく寄与しました。すなわち、さまざまな胃疾患発生の病態の根本にはピロリ菌による胃粘膜の慢性炎症が存在することが明らかにされたのです。現在では我が国で除菌療法が積極的に行われるようになり、また地域の衛生状態と関連するとされるピロリ菌感染率自体も急速に低下しています。近い将来ピロリ感染症が我が国から消滅する日もそれほど遠いことではないように思えます。

ただ、ピロリ菌がいなくなっても胃疾患がなくなるわけではなく、薬剤性胃粘膜傷害や、胃食道逆流症、機能性消化管疾患、アレルギー性消化管疾患、さらにはピロリ陰性胃癌などが増加する可能性があります。今回の研究会ではこのピロリ非感染状態やピロリ除菌後に発生する胃疾患の病態にフォーカスをあてて活発な議論を行っていただきたいと思います。現在医局員一同、より多くの先生方に参加していただき有意義な科学的議論が出来る会にすべく鋭意準備中であります。先生方におかれましても、本会の運営にあたりお力添えを戴きたく、何卒宜しくお願い申しあげます。

2016年7月吉日